

FP Topics =金【GOLD】投資について= 2024年11月号

=One's impressions=

朝晩はかなり冷え込んできました。いま暮らしている場所は山の中腹ですので余計なのかもしれません。夜になると深々と冷え込んでいきます>_< 体調管理にはお気を付けください！

さて、今月は『金投資について』特集してみたいと思います。皆さんもご存じのとおり、金の価格は歴史的な高値を付けているようです。今月は価格の変動要因や投資の手法を整理してみたいと思います。

=金投資の特徴=

金投資の大きな特徴は大きく分けて2つあります。金融商品と異なる大きな特徴として、まず一つ目は、発行体が存在しないことです。株式や債券にはその発行体があり、破綻等によりその価値がゼロになる可能性があります。それに対して実物資産としての金は発行体が存在しないので、デフォルトリスクがありません。過去にも金の資産価値がゼロになったことはなく、長期的な安全資産として位置づけられています。

もう一つの大きな特徴として、利子や配当などのインカムゲインがないということです。金投資で得られる利益は、買った価格より高い価格で売却することによる差益（キャピタルゲイン）となります。現金や預金はインフレ時、実質的な価値は下がります。それに対して、実物資産としての金の価値は下がりにくいことから、金投資はインフレに強いとされています。

株式投資に代表される金融資産は経済が活発化すると価格が上昇し、経済の停滞や社会情勢の悪化等により、その価格は下落する傾向にあります。金の価格は株式等とはその変動要因が異なります。

=金価格の変動要因=

金の価格は複合的な要因で変動します。要因のひとつとして金利の変動があげられます。金の取引単位として、国際的には1トロイオンス（31.1035グラム）を米ドル建てで取引されており、アメリカの金利の影響を受けます。一般的に高金利の際は、インカムゲインのある債券などに対して、インカムゲインを生まない金の価格は、相対的に価格は下落する傾向にあります。

現在の世界情勢の不安定な状況も金価格の変動要因になっているようです。“有事の金”といわれているように、地政学リスクや経済状況が悪化する際は、金価格は上昇する傾向にあるようです。

その他、金の実物需要や宝飾品の需要。日本では、米ドル建てで取引されている金を、1グラムあたりの円に換算して売買されています。よって、ドル円為替レートの影響を受けることになります。現状の円安は金価格の上昇につながっています。



金投資の手法は、金地金や地金型金貨のような現物資産として購入する方法。純金積立・金ETF・投資信託といった金融商品を利用する方法もあります。

● 金地金

バー、インゴット、延べ棒等の実物の金地金は貴金属会社等で販売されています。重量やサイズによって1kg・500g～5gまでの種類があります。

金地金には、“小売価格”と“買取価格”があり、売買時にはバーチャージと呼ばれる手数料がかかる場合があります。

● 地金型金貨

地金型金貨（コイン）は地金より少額での購入・売却が可能です。代表的なものとして、カナダ王室造幣局発行の『メイプルリーフ金貨』などがあります。金地金と同様に“小売価格”と“買取価格”があり、消費税の課税対象となっています。売却益は原則、譲渡所得として総合課税の対象となります。

● 純金積立

毎月一定額を購入する仕組みとなっており、購入価格が平準化される効果が見込まれます（ドルコスト平均法）。購入時には1.5%～3%程度の手数料がかかりますが、売却時の手数料はゼロとするところが多いようです。

● 金ETF（上場投資信託）

金価格に連動するETFは現在4銘柄が上場しています（東京証券取引所）。小額から購入可能で、低コストも魅力となっています。

● 金関連の投資信託

金に関連する投資信託は、上記のETFやファンド・オブ・ファンズ方式で間接的に金の現物に投資するものなどがあります。その多くは米ドル建てとなっており、NISAの成長投資枠の対象商品もあるようです。

先月号では、沢登りについて日本独特の登山スタイルというふうにご紹介しました。装備的にも独特なものが少なくありません。山歩きの総合力を試されます。読図能力（ルートファインディング）・生活力・登攀能力・体力など、生き抜く力を試される山歩きのスタイルです。

関東と関西では名称のつけ方が異なります。関東では〇〇沢と呼びますが、関西では〇〇谷と呼びます。私的には“谷”とした方がしっくりきますので、“谷”と表現したいと思います。写真は、谷を安全に遡行するために必要な道具類です。

下に敷いている黄色いシートは、ツェルトと呼ばれるシェルターです。一枚物のシートで、たたむと手のひらサイズになります。このツェルトは2人用で重さは150g、大人2人が入ることができます。様々な設営スタイルがあり、その時々に応じて利用します。

左上は沢靴です。靴底がフェルトになっているため、苔も滑り難くなっています。この靴で滝も登っていくことから、私的にはピッタリサイズが好ましい（細かいスタンスへの立ち込みが容易）と思うのですが、長時間歩くと流石に足が痛くなってきます。

右上は通称“ガチャ”と呼ばれる登攀器具（カラビナ類）です。腰につけて歩いているとガチャガチャ音が鳴ることからそう呼ばれています。靴の下はヘルメットとロープ（ザイル）です。ヘルメットは絶対に必要です。滝場での落石は本当に恐ろしい・・・もの凄い音です。爆弾が落ちたような音がします。（実際の爆弾は知りませんが・・・）

